



FC KAGOSHIMA

パートナーシッププログラムのご紹介

「鹿児島をスポーツの力で元気にする！」



2011年9月

1枚の日本地図をご覧ください。

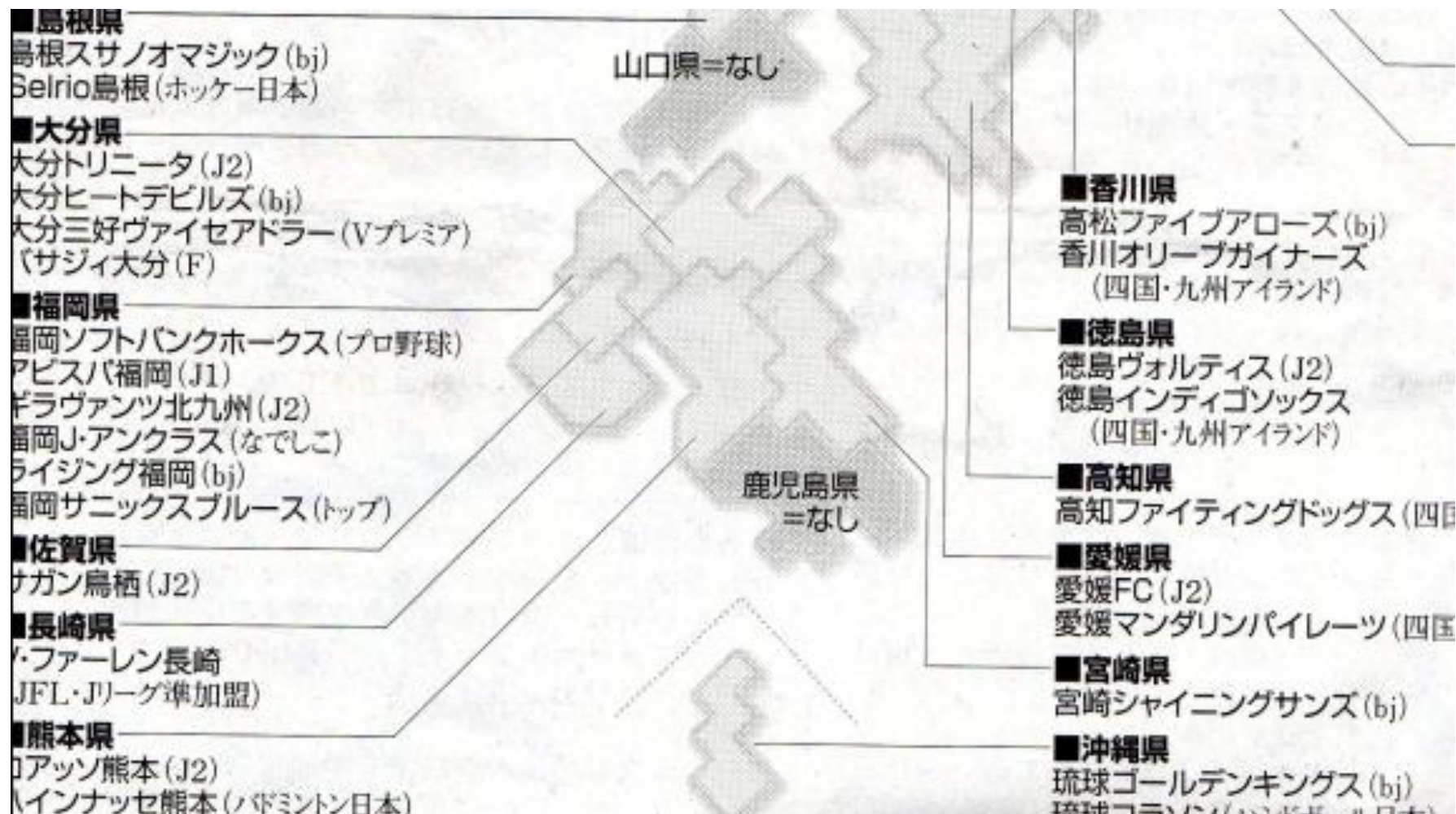
平成23年1月1日

引用:朝日新聞

我が街のチーム

- ①野球のプロチーム
- ②プロサッカー・Jリーグチーム
(準加盟を含む)
- ③プロバスケットボールリーグ・bj
リーグチーム
- ④プロ・アマを問わず各競技の全
国リーグに所属し、地域・都市名
を名前に採用しているチーム
を基準に都道府県別に作成して
ある。





日本でプロのスポーツチームが無い県は、
奈良県、山口県、そして鹿児島県のみと
記載されています。

一方、こんな記事もあります。



【第3者も認める鹿兒島の可能性】
 これは、2004年、プロ野球・楽天球団が、仙台に本拠地を決めた時期の朝日新聞の記事です。鹿兒島は、他の都道府県に比べて、有望なプロスポーツが成り立つ地域ではないか、と書かれています。

鹿児島を、スポーツの力で元気にする事ができないだろうか？

**スポーツの中でもサッカーは、鹿児島は全国屈指の人材輩出県であり、
事実、日本代表にも何人も選ばれています。**

可能性はあるはずです。

**鹿児島より人口や経済力でも規模の県でもプロチームが成立し、
地元を盛り上げる存在になっていて、
その県の出身者含めて盛り上がっているのに、
鹿児島にはそれがない現状。**

**そのような状況を打破し、
鹿児島をより盛り上げるために、
故郷・鹿児島を想う県内外の有志によって
2年の歳月をかけて立ち上げたのが
この“FC KAGOSHIMA”というチームです。**

男子サッカーは、**全国2位の“Jリーガー排出率”を誇る県**でありながら、**地元**にプロチームがないために、**鹿児島の素材が全国に散っていく状態**である。

鹿児島の子供たちに、夢を！

鹿児島の素材が全国のチームに散っていく、というこの構図を変えたい。**自分の生まれた地にチームがあることで、子供たちに身近な夢を与えます。**



城



前園



遠藤



大迫

高校サッカー)鹿児島実業 選手権優勝2回、準優勝3回、
女子高校サッカー)神村学園 鳳凰 全国優勝多数

全日本ユース選手権 優勝1回 準優勝1回
高専サッカー大会 鹿児島高専 全国優勝多数

* 写真はWebから抜粋

鹿児島の子供たちに、夢を！

加えて、サッカーは、世界に繋がっています。**いつの日か、ここ鹿児島で、FCバルセロナやACミランと真剣勝負を繰り広げる可能性だってあるのです。**

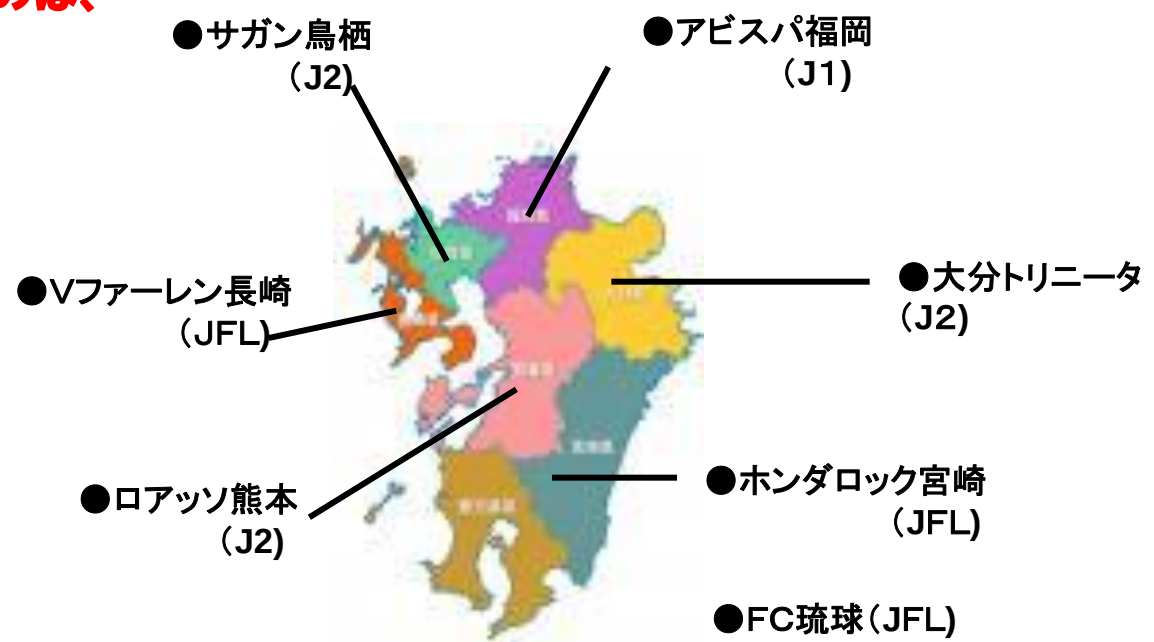


●九州新幹線鹿児島ルートが、2011年3月全線開通。
鹿児島が盛り上がる起爆剤になると考えられる。
“今の鹿児島を語るネタ”があることが必要。



●現在、九州内でJリーグに近いリーグに
位置するチームを持たないのは、
鹿児島だけ、
という寂しい現状もある。

因みに、山形にはJ1の、
愛媛にはJ2のチームが
あります。
鳥取のチームは、今年、
J2昇格しました。



【チーム活動理念】

鹿児島をスポーツ(サッカー)で盛り上げること

- ・他県に在住する人を含めた“鹿児島を愛する老若男女の共通の話題”となる存在になる。
- ・鹿児島の子供たち、若者に夢を与えられるようなチームになる。



チーム運営会社: 株式会社 オアシス鹿児島
代表者: 徳重 剛(代表取締役社長)
所在地: 〒892-0815 鹿児島市易居町1番2号ソーホーかごしま4号室
活動領域: 鹿児島県全域
チーム発足日: 2010年3月
資本金: ￥3,500,000
売上高: ￥9,000,000 ※2010年1月期
取引先銀行: 鹿児島銀行・南日本銀行・みずほ銀行鹿児島支店
スポンサー: 40社 ※2011年4月時点
サポーター会員数: 約700名
サポートしている著名人: 鑑山親方(元関脇寺尾)・金峰山・俳優田上晃吉さん・シンガーソングライター
 辛島美登里さん・プロゴルファー小田龍一 選手・総合格闘家 菊野克紀 選手 ※2011年3月時点
サポートメディア: FMさつま(ローカルラジオ)・月刊LEAP鹿児島(地域情報誌)・
 Oh-goji鹿児島(女性専門フリーペーパー)

クラブ事業パートナー



クラブサポート会員



FC KAGOSHIMAは2011年～2016年までの5年間、
鹿児島県「きばれ！地域密着型ビジネス

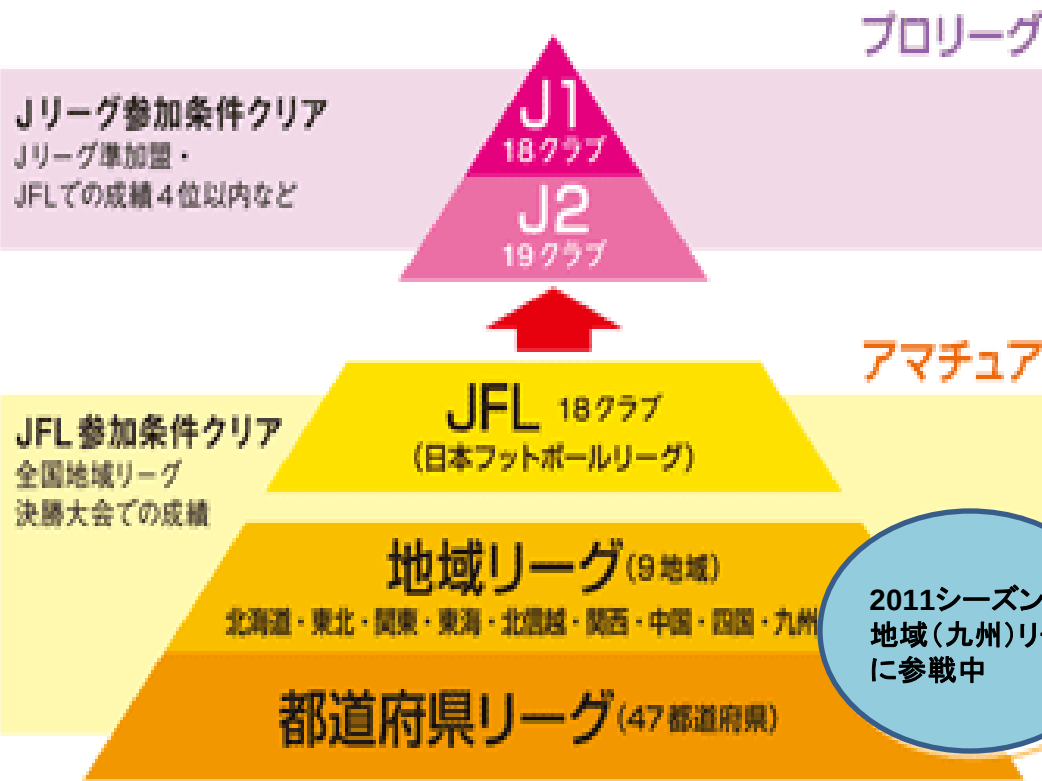
支援事業」の認定を受けました。

※雇用の創出など地域経済の活性化を図るため、地域における様々な社会的課題を地域住民自らがビジネスの手法を用いて解決しようと取り組む方を支援し、地域の小規模な創業や事業継続を後押しします。

幼児スポーツ教室協賛



サッカー界は、アマチュアからプロリーグまでしっかりとしたピラミッド構造が存在しています。
まずは**6年後のJ2昇格を第一のゴールに設定し、3stepでアプローチ**します。



Step.3 “実現・達成”

J2昇格を果たすことで、地域にしっかり根ざした、鹿児島に欠かせない大切な存在に。

勝利 JFL 上位→J2 昇格

Step.2 “稼働”

メンバーの強化を図りながら、急加速。チーム力も順調に向上し、JFL昇格。

勝利 地域リーグ上位 → JFL 昇格

Step.1 “宣誓・開始”

チームもメンバーも新しくなって迎える第一歩。取り組みを地域社会に宣誓しながら、まずは基盤をしっかりと構築。

勝利 都道府県リーグ優勝 → 地域リーグ上位

【FC KAGOSHIMAの2011年】

鹿児島県1部リーグからのスタートになった2010年は、**リーグ戦全勝優勝**。

2011年1月、**九州各県1位チームが集う大会でも優勝し、発足初年度で、九州リーグ昇格を決めた**。九州リーグでも優勝を目指して戦い、全国地域リーグ決勝大会への出場→JFL昇格を狙う1年としたい。

FC KAGOSHIMA 2010年度 公式戦戦績

- ・南日本社会人サッカー(県リーグ1部・8チーム)・・・**優勝(7戦7勝)**
→各県1位トーナメント・・・**大分1位に4-0、熊本1位に4-1、沖縄1位に4-1で優勝し、九州リーグ昇格決定**
- ・鹿児島県サッカー選手権(天皇杯予選)・・・**ベスト4(鹿児島城西など破り、ベスト4進出)**
- ・九州社会人サッカー選手権鹿児島県予選(トーナメント)・・・**優勝(決勝戦も12対0と圧勝)**
→全国社会人サッカー選手権九州地区大会進出・・・**佐賀県優勝チームと、九州リーグ4位の九州INAX下して九州代表に。**
- 全国社会人サッカー選手権大会進出・・・初戦で前年ベスト4のTonan前橋(関東代表)に延長戦1-2で敗退。



【現状】

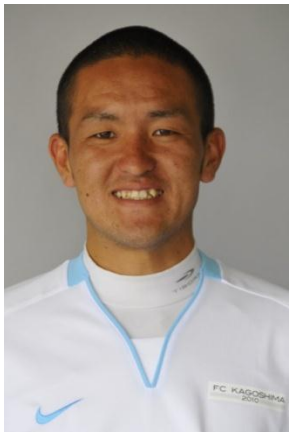
発足わずか半年で、鹿児島県のトップチームに！

九州リーグ上位のチームにも公式戦で完勝しており、来期の九州リーグ昇格、そして九州リーグでの上位進出の期待が大きく膨らむ1年目のシーズンとなった。

FC KAGOSHIMA に所属する選手は、約24名。

うち、鹿児島県出身者が7割を超え、残りもほとんどが鹿児島の高校、大学の出身者で構成されています。

JFL(日本フットボールリーグ)に所属していた選手が6名、そしてJ2サガン鳥栖から谷口堅三選手が“鹿児島のために”移籍してくるなど、戦力的には上位カテゴリー進出を期待できる陣容です。



田上 裕 (タノウエ ユタカ)
プレイングマネージャー / DF
168cm / 65kg
1986年1月12日生
鹿児島県出身
鹿児島城西高校
一宮崎産業経営大学
一FC刈谷一FC琉球



辻 勇人 (ツジ ハヤト)
FW
175cm / 73kg
1986年7月9日生 /
鹿児島県出身
神村学園高校
一KFCフェローズ
一ヴォルカ鹿児島



愛甲 光 (アイコウ ヒカル)
DF
180cm / 73kg
1986年12月6日生
鹿児島県出身
鹿児島城西高校
一宮崎産業経営大学
一FC琉球



谷口 堅三 (タニグチ ケンゾウ)
FW
179cm / 69kg
1988年12月22日生 /
鹿児島県出身
アミーゴス鹿児島U18
一サガン鳥栖

2010年3月のチーム発足の会見の様子は、新聞社、地元放送局のニュースでも大きく取り上げられました。その後も、チームのプロモーションビデオの放映や、天文館にあるチームのオフィシャルカフェでのファンとの交流、地元情報誌での継続した取り上げ、積極的なイベント参加など、継続的な情報発信を行っており、その注目度も上がってきております。（一覧は次ページ）

山口県で開催された**全国社会人選手権大会でも、サポーター数は地元チームを除くと最大数を記録**しました。

また、**個人会員(1口:3千円)も約700口集まり、遠征費として使用致しました。**



記者発表の様子や
初の練習試合の記事



情報誌(Leap)での
継続的な掲載



鹿児島中央駅や天文館
でのチーム映像の放映



天文館のオフィシャルカ
フェでのイベントの様子

2011・4・25 南日本新聞

九州リーグ初参戦ながら、HOME
ゲームに500人近い観客を集めた。

本 業 2011年(平成23年)4月25日 月曜日 スポーツ 18

【FC鹿児島—九州総合スポーツカレッジ】前半38分、FC鹿児島・
愛甲（右奥）が先制のヘディングシュートを決める 二国分運動公園



内野は、いまひとつだったが、勝ち点3を積み上げ、首位と1差の3位に浮上した。これは「大きなヤマは越えた。これで落ちついて戦える」と前向き。合口は「応援を重宝でなく、力に変えられるようにしたい」と奮った。ホーム戦はあと4試合。次はその力を存分に発揮するつもりだ。（石茂行）

九州リーグ
FC鹿児島
サッカークラブの第38回九州リーグ第4節は24日、九州各地で試合があった。FC鹿児島は鹿児島市国分運動公園で九州総合スポーツカレッジ（大分）を相手に、初戦初戦を飾った。通算成績は3勝1敗（1点）

FC鹿児島地元初戦飾る
負け。ヴォルカ鹿児島は、長崎県で三番手長崎と対戦。ヴォルカ鹿児島は、戦、1-1からのPK戦を勝ち、地元初戦を飾った。前半は、両チームともにゴールがなかった。後半は、FC鹿児島は26本のシュートを放ち、何度か決定機をつくりながら3得点。ヒヤヒヤの逃げ切り勝利だった。FW合口は「ホーム初戦の重圧で、全体的に『俺が俺だ』という雰囲気になってしまった。まだまだ力不足。4試合連続得点のチャンスは、反省の言葉を述べた。前半は、両方、敵陣で試合を始めた。相手は、思わぬ同点も与えないほどの攻撃攻撃は、今季最高の出来（FW合口）。だがゴールが遠い。前半だけで16本放ったシュートは、ほとんど枠の外へ。5得点をつもておけない内容だったが、セットプレーの1点のみ。敵陣は何度かため息を吐いたが、後半には「後半は、何点入るだろう」という期待もあふれていた。だが後半、開始直後のゴールで息を吹き返した相手に手を焼いた。出陣が鈍り、フランスは崩れる失点。あわや同点のピンチもあった。ゴールラッシュの期待は早々に消え、観客席は悲鳴とどろき何度も交錯した。選手兼任の田上監督は、決めるべきときを決められなくて、流れが悪くなった。安心して見られる試合ができず、申し訳ない。」

内野は、いまひとつだったが、勝ち点3を積み上げ、首位と1差の3位に浮上した。これは「大きなヤマは越えた。これで落ちついて戦える」と前向き。合口は「応援を重宝でなく、力に変えられるようにしたい」と奮った。ホーム戦はあと4試合。次はその力を存分に発揮するつもりだ。（石茂行）

第5節は5月8日、各地で5試合がある。FC鹿児島は佐賀県で川崎クラブ（佐賀）、ヴォルカ鹿児島は鹿児島市で鹿児島県立上野原高校（鹿児島）と対戦する。

第5節は5月8日、各地で5試合がある。FC鹿児島は佐賀県で川崎クラブ（佐賀）、ヴォルカ鹿児島は鹿児島市で鹿児島県立上野原高校（鹿児島）と対戦する。

FC鹿児島 首位浮上



PK制し8連勝
「条件は相手と同じ。連動性がなく、一生懸命プレーしていない選手もいて、はるばる見に来てくれた人たちに申し訳ない」と反省を口にしました。

連戦といふこともあり、得点王の谷口や守備の柱・愛甲など主力数人を先発から外した。だが「前日に」ヴォルカから3点取れたから、今日も取れるだろうという甘さが出た」と田上監督。途中出場でゴールを決めた前田は「流れが悪かった。とにかくシュートを打とうと心がけた。もつと連勝を高めないと。」

前節まで首位のHOGOがヴォルカに敗れたため、勝ち点差1で首位に立って前節を終えた。田上監督は「このままの位置に居続けるのが目標。夏場も連動を生かしたサッカーで勝負したい」と意気込んでいる。

不安がなく、最後まで集中力を保ったと評価した。ただ、決定機は相手より多かったため、もつと引きたい。次回は首位を走る高松をホームに迎え撃つ。前回の対戦でもチャンスは多かった。しっかりと集中して決めた」と決意を語った。

2011・6・6 南日本新聞

1stステージ終了時に、
首位に浮上!!

●2011年6月4日 ヴォルカ鹿児島との一戦を終えて

19 スポーツ 2011年(平成23年)6月5日 日曜日

九州リーグ

FC鹿児島、ヴォルカ下す



泥くさく、走力で上回る

ヴォルカは無念1点精いっぱい

ヴォルカ、精神面に課題

九州のアスリート

ヴォルカを3-1

FC鹿児島

初ダービー制す

九州リーグ

ヴォルカは無念1点精いっぱい

ヴォルカ、精神面に課題

←南日本新聞

西日本スポーツ→

○メディア

<雑誌>

毎月

情報誌「LEAP」の「Sport's Colum」に連載

<テレビ>

8月17日

KYT鹿児島読売テレビ「KYT news every」で特集

8月27日

KTS鹿児島テレビ「おしゃべりサラダ」

9月27日

NHK鹿児島テレビ「情報Waveかごしま」

9月27日

KTS鹿児島テレビ「KTSスーパーニュース」

<ラジオ>

7月23日

フレンズFM「ゆみちゃんねる」出演

8月28日

フレンズFM「ASIAN WAVE～今、アジアの風～」出演

9月13日

MBCラジオ「海童が行く」出演

○イベント

5月23日

第6回関西かごしまファンデー(大阪・京セラドーム)

7月21、22日

MBC夏祭り(ブースで選手がお手伝い)

8月 1日

第29回宇宿納涼夏祭り(ブース出展)

8月13～15日

イオン鹿児島ショッピングセンターで告知活動

9月23日

児童養護施設・三州原学園の子供達とサッカー交流

10月 9日

天文館サッカー教室・主催鹿児島市役所

10月13日

鹿児島を楽しむファンのゆうべ(千葉・浦安)

10月23日

薩摩ISHIN祭(始良市加治木町)

10月24日

チャリティーラン・主催YMCA(鴨池陸上競技場)

10月31日

薩摩酒造明治蔵 新酒祭り(枕崎市)

11月 2日

おはら祭り(鹿児島市)

○自主イベント

定期イベント

FC KAGOSHIMA サポート飲み会(鹿児島、東京)

10月 3日

FC KAGOSHIMA Cupフットサル大会(横浜・キャプテン翼スタジアム):参加者120名

2011年3月

2011年決起集会イベント

“NO MUSIC NO SOCCER! ? 僕らの街にプロサッカーチームを作ろう!”(東京・渋谷)



鹿児島をスポーツで元気にする！

『鹿児島県内』での活動体制

【チーム運営会社】

株式会社 オアシス鹿児島

主要メンバー：

徳重剛(公認会計士)、東理香(営業、広報)

黍田利(会社経営)など

加えて本活動を支援する会社経営者、飲食店経営者
フリーライター、自営業など

- ・サポーターが気軽に集えるオフィシャルカフェ“Colors”天文館”(2011年4月まで)の運営
- ・鹿児島での支援体制作り
- ・PR活動への取り組み(商店街イベントなどへの参加、自主イベントの実施)

『鹿児島県外』での活動体制

【チームサポート組織】

FC KAGOSHIMA後援会

主要メンバー：

IT企業経営者、大学講師、放送局、
イベント制作会社、広告会社、保険会社勤務の
会社員、システムエンジニアなど

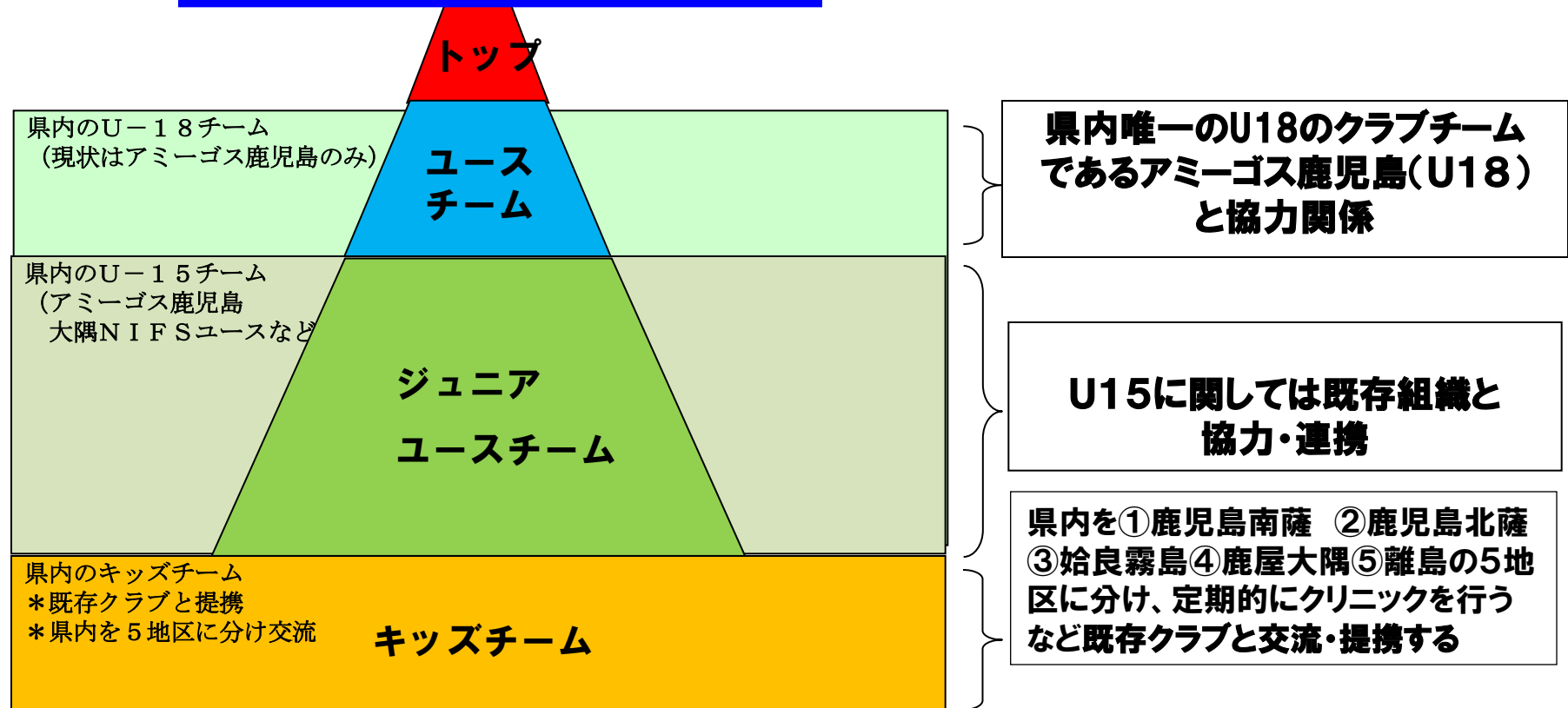
- ・東京、大阪での県人会、高校同窓会でのPR活動、個人、法人会員の呼びかけ
- ・東京、大阪でのチーム応援イベントの開催
- ・鹿児島県出身者で、各界(芸能界、スポーツ界)で活躍している方々への応援依頼

“鹿児島をスポーツで元気にする！”ことを目的にして、
鹿児島だけでなく、東京、大阪でも活動していることが、大きな特徴となっている。

将来のJリーグ入りに向けて、必須となる下部組織。

鹿児島地区、霧島地区、大隅地区、それぞれにU12、U15のチームを持つことを将来構想として持っています。このことで、県内全域を巻き込んだ“鹿児島を代表するチーム”を目指します。

トップチーム=FC KAGOSHIMA



Jクラブがもたらす年間経済効果

クラブ名	経済効果	雇用効果	税収効果
・仙台	約41億円	374人	約8千万円
・川崎F	約33億円	299人	約5千万円
・甲府	約17億円	320人	約3千万円
・G大阪	約41億円	340人	約9千万円
・愛媛	約5億円	57人	約8百万円
・大分	約25億円	322人	約4千万円

・鹿児島県登録者数等

財団法人 日本サッカー協会

・チーム登録数	624チーム	全国 16位
・選手登録数	16,346人	全国 17位
・フットサル個人登録数	4,298人	全国 7位



フットボールの熱源

Jリーグ入りを目指す
フアジアーノ岡山(JFL)の木村正明代表は、
2年前まで金融業界に身を置き海外勤務も経験している。その間、夏になると自然に甲子園に足が向いたという。出身地、岡山の球児を応援するためわざわざ帰国した。

「故郷を離れて初めて自分は岡山人間なんだなあ」と気付かされた。フ

アジアーノも、そういう思いを抱いた方々のようになれると思うんです。確かに、Jリーグの各クラブは愛郷心をくすべり、人々がアイデンティティーを確認するツールになっている。

同じく昨年、金融業界から転身したJリーグエントラープライズの浜家拓也企画室長も、木村代表と似た経験をしている。愛媛から上京後、20年間に5度ほどしか帰郷していません。二〇〇六年の愛媛FCのJリーグ参入後は100回以上

愛郷心をくすぐる

故郷を訪れている。東京にいながらクラブを支援する活動にのめりこみ、県人会や高校の同窓会などを通じて、関東圏での愛媛FCの試合の観戦を呼びかけたり、松山でパブリックビューイングを開催したり。2年前の東京V戦(国立)で1500人の愛媛サポーターを集めるなど、確かな実績を残している。

ゴール裏は久しぶりに友人・知人と顔を合わせ、大同窓会の様相を呈しているという。当然、選手も奮い立つ。「故郷を離れていても、こうやって愛媛を元気にすることはできる。そして、その元気をクラブが全国に届けるという構図をつくりたい」と浜家さんは話す。現在は、こうした活動をより組織化するため「愛媛FC後援会」の発足に動いている。

各クラブは地域住民との密着に力を入れている。しかし、実は密着を図るべき人々はホームタウンから遠く離れたところにもたくさん存在する。(吉田誠一)



フットボールの熱源

2部(J2)で10年を過ごした末に悲願の1部(J1)昇格を果たしたのだから当然なのかもしれないが、山形の1試合平均入場者が昨季の6273人の2倍を上回る1万3027人(第20節現在)へと増えている。

中井川茂敏ゼネラルマネジャー(GM)は感慨深げに話す。「モンテディオのユニホームを着た

おばあさんが2人組で田んぼの中の農道を自転車でやってきたりする。これまでは考えられなかった光景ですよ。ああいう姿を目にするとジーンとくる」。天童市の本拠地に近い地区には、幅広い年齢層のサポータークラブが2つ生まれていて、バスでアウェーの試合に駆けつけてもいる。

「これまでは、モンテディオは一部の人のためのものと思われていた気がする」と中井川GMはいう。サッカーファンのものであり、若者のもの

Jが地域愛の源泉

である、だからちよっと近づきにくい、という感じだったのだろう。

それが、J1昇格を機に地域住民のもの、山形県民のものになった。クラブを身近に感じ、シンパシーを抱いている人がそれだけ増えた。「チームを応援しながら、実は『山形』を応援しているという感覚なのではないかと思うんです」と中井川GMは話す。

日本経済研究所が先週発表した調査「Jクラブの存在が地域にもたらす効果」には、「クラブは地域住民に新たなアイデンティティーを付与するものであり、地域愛の源泉になる」とある。「そのうした本質、力をクラブ自体がきちんと認識しておらず、自治体、地元企業などへのアピールが十分でない」と同研究所は指摘している。

山形の試合に集う人々が感じている豊かさは数字には表れない。しかし、確実に人々の生活が変わり、地域の活力がアップしている。Jクラブには数字に表れにくい力がある。(吉田誠一)

ご提案内容

今回のご提案は、チームのスポンサーというより、“共に鹿児島を盛り上げるためのパートナー”になっていただきたい、という思いでご提案したいです。

本サッカーチームをハブにして、＜チームの理念を共有し、中長期的に支援してもらえる企業・団体同士、企業・団体と地域が結びつくような場＞を作り出したい、という強い想いです。



①御社広告での協賛クレジット(ロゴの作成)の使用権

・御社CM, 新聞・雑誌広告、公式ホームページ等の媒体において、
協賛クレジット及びチームロゴの使用可能。

協賛クレジット例: 鹿児島をスポーツで盛り上げよう。がんばれ FC KAGOSHIMA!!

〇〇〇〇はFC KAGOSHIMAを応援しています。

〇〇〇〇はFC KAGOSHIMAのオフィシャルパートナーです。

②FC KAGOSHIMA公式サイトでのバナーの提出と御社HPへのリンク

③個人会員へ送付する広報誌での社名掲載

④鹿児島、福岡、大阪、東京での県人会や同窓会で配布する チラシでの社名掲載



①公式戦及び練習試合で着用する、Home及びAwayユニフォームの前面への御社ロゴまたは、御社商品ロゴの掲出(300cm)

・2010年度の公式戦の場合(2011年度に九州リーグ昇格の場合は10チームによる2回戦総当たり)

南日本社会人サッカー(1部・8チーム)・・・5月～

九州社会人サッカー選手権鹿児島県予選に優勝→九州地区社会人選手権大会に勝利→全国社会人選手権大会

鹿児島県サッカー選手権に優勝(6月)→天皇杯(全国大会)

KSLカップ(3月)に優勝→国民体育大会九州予選→国民体育大会

・及び練習試合(過去対戦相手実績:ロアッソ熊本、鹿屋体育大学、宮崎産経大、アミーゴス鹿児島U18など)

②御社広告での協賛クレジット(ロゴの作成)及び、監督・選手の肖像使用权

・御社CM、新聞・雑誌広告、公式ホームページ等の媒体において、協賛クレジット及びチームロゴの使用可能。

協賛クレジット例: 鹿児島をスポーツで盛り上げよう。がんばれ FC KAGOSHIMA!!

○○○はFC KAGOSHIMAを応援しています。

○○○はFC KAGOSHIMAのオフィシャルパートナーです。



③FC KAGOSHIMA公式サイトでのバナーの提出と御社ホームページへのリンク

④個人会員へ送付する広報誌での社名掲載

⑤鹿児島、福岡、大阪、東京での県人会や同窓会で配布するチラシでの社名掲載

⑥試合会場での御社の横断幕、のぼりなどの設置及びパンフレットの配布

*会場の規定と試合の規定の精査の必要があります

⑦御社イベントへのFC KAGOSHIMAの所属選手の出演交渉権利

・御社主催イベントに監督、選手の招待、出演依頼が可能です。※日程の調整が必要となります。

■社内パーティーへの招待 ■社内報等へのインタビュー 他 ■施設訪問 他

⑧チームイベントへのご招待

・激励会(シーズン開幕前)、納会(シーズン終了後)への5名程度のご招待

⑨実使用ユニフォームプレゼント

・選手実使用ユニフォーム プレゼント(枚数は調整)



①公式戦及び練習試合で着用する、Home及びAwayユニフォームの背中部への御社ロゴまたは、御社商品ロゴの掲出(200cm)

・2010年度の公式戦の場合(2011年度に九州リーグ昇格の場合は10チームによる2回戦総当たり)

南日本社会人サッカー(1部・8チーム)・・・5月～

九州社会人サッカー選手権鹿児島県予選に優勝→九州地区社会人選手権大会に勝利→全国社会人選手権大会

鹿児島県サッカー選手権に優勝(6月)→天皇杯(全国大会)

KSLカップ(3月)に優勝→国民体育大会九州予選→国民体育大会

・及び練習試合(過去対戦相手実績:ロアッソ熊本、鹿屋体育大学、宮崎産経大、アミーゴス鹿児島U18など)

②御社広告での協賛クレジット(ロゴの作成)及び、監督・選手の肖像使用权

・御社CM、新聞・雑誌広告、公式ホームページ等の媒体において、協賛クレジット及びチームロゴの使用可能。

協賛クレジット例: 鹿児島をスポーツで盛り上げよう。がんばれ FC KAGOSHIMA!!

○○○はFC KAGOSHIMAを応援しています。

○○○はFC KAGOSHIMAのオフィシャルパートナーです。



③FC KAGOSHIMA公式サイトでのバナーの提出と御社ホームページへのリンク

④個人会員へ送付する広報誌での社名掲載

⑤鹿児島、福岡、大阪、東京での県人会や同窓会で配布するチラシでの社名掲載

⑥試合会場での御社の横断幕、のぼりなどの設置及びパンフレットの配布

*会場の規定と試合の規定の精査の必要があります

⑦御社イベントへのFC KAGOSHIMAの所属選手の出演交渉権利

・御社主催イベントに監督、選手の招待、出演依頼が可能です。※日程の調整が必要となります。

■社内パーティーへの招待 ■社内報等へのインタビュー 他 ■施設訪問 他

⑧チームイベントへのご招待

・激励会(シーズン開幕前)、納会(シーズン終了後)への3名程度のご招待

⑨実使用ユニフォームプレゼント

・選手実使用ユニフォーム プレゼント(枚数は調整)



①公式戦及び練習試合で着用する、Home及びAwayユニフォームのショーツ・前面左 への御社ロゴまたは、御社商品ロゴの掲出(80cm)

・2010年度の公式戦の場合(2011年度に九州リーグ昇格の場合は10チームによる2回戦総当たり)

南日本社会人サッカー(1部・8チーム)・・・5月～

九州社会人サッカー選手権鹿児島県予選に優勝→九州地区社会人選手権大会に勝利→全国社会人選手権大会

鹿児島県サッカー選手権に優勝(6月)→天皇杯(全国大会)

KSLカップ(3月)に優勝→国民体育大会九州予選→国民体育大会

・及び練習試合(過去対戦相手実績:ロアッソ熊本、鹿屋体育大学、宮崎産経大、アミーゴス鹿児島U18など)

②御社広告での協賛クレジット(ロゴの作成)及び、監督・選手の肖像使用権

・御社CM、新聞・雑誌広告、公式ホームページ等の媒体において、協賛クレジット及びチームロゴの使用可能。

協賛クレジット例: 鹿児島をスポーツで盛り上げよう。がんばれ FC KAGOSHIMA!!

○○○はFC KAGOSHIMAを応援しています。

○○○はFC KAGOSHIMAのオフィシャルパートナーです。



③FC KAGOSHIMA公式サイトでのバナーの提出と御社ホームページへのリンク

④個人会員へ送付する広報誌での社名掲載

⑤鹿児島、福岡、大阪、東京での県人会や同窓会で配布するチラシでの社名掲載

⑥御社イベントへのFC KAGOSHIMAの所属選手の出演交渉権利

・御社主催イベントに監督、選手の招待、出演依頼が可能です。※日程の調整が必要となります。

■社内パーティーへの招待 ■社内報等へのインタビュー 他 ■施設訪問 他

⑦チームイベントへのご招待

・激励会(シーズン開幕前)、納会(シーズン終了後)への2名程度のご招待

⑧実使用ユニフォームプレゼント

・選手実使用ユニフォーム プレゼント(枚数は調整)



①公式戦及び練習試合で着用する、Home及びAwayユニフォームの左袖への御社ロゴまたは、御社商品ロゴの掲出(50cm)

・2010年度の公式戦の場合(2011年度に九州リーグ昇格の場合は10チームによる2回戦総当たり)

南日本社会人サッカー(1部・8チーム)・・・5月～

九州社会人サッカー選手権鹿児島県予選に優勝→九州地区社会人選手権大会に勝利→全国社会人選手権大会

鹿児島県サッカー選手権に優勝(6月)→天皇杯(全国大会)

KSLカップ(3月)に優勝→国民体育大会九州予選→国民体育大会

・及び練習試合(過去対戦相手実績:ロアッソ熊本、鹿屋体育大学、宮崎産経大、アミーゴス鹿児島U18など)

②御社広告での協賛クレジット(ロゴの作成)及び、監督・選手の肖像使用权

・御社CM、新聞・雑誌広告、公式ホームページ等の媒体において、協賛クレジット及びチームロゴの使用可能。

協賛クレジット例: 鹿児島をスポーツで盛り上げよう。がんばれ FC KAGOSHIMA!!

○○○○はFC KAGOSHIMAを応援しています。

○○○○はFC KAGOSHIMAのオフィシャルパートナーです。

③FC KAGOSHIMA公式サイトでのバナーの提出と御社ホームページへのリンク

④個人会員へ送付する広報誌での社名掲載

⑤鹿児島、福岡、大阪、東京での県人会や同窓会で配布するチラシでの社名掲載

⑥御社イベントへのFC KAGOSHIMAの所属選手の出演交渉権利

・御社主催イベントに監督、選手の招待、出演依頼が可能です。※日程の調整が必要となります。

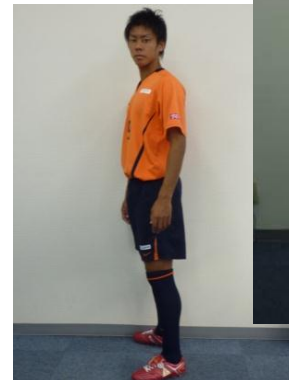
■社内パーティーへの招待 ■社内報等へのインタビュー 他 ■施設訪問 他

⑦チームイベントへのご招待

・激励会(シーズン開幕前)、納会(シーズン終了後)への2名程度のご招待

⑧実使用ユニフォームプレゼント

・選手実使用ユニフォーム プレゼント(枚数は調整)



最後までお聞きいただき、ありがとうございました。
“愛する故郷・鹿児島をスポーツ(サッカー)で元気にする！”
この理念を叶えるまで、一生懸命、邁進したいと思います。

ご検討の程、何卒、よろしくお願いいたします。